

曹洞宗 圓祥山大安寺 住職:長岡俊應

〒039-4401 青森県むつ市大畑町本町80番地  
Tel 0175-34-2926 Fax 0175-34-6426  
E-mail info@daijanji.jp

# 大安寺報

名句・名言に学ぶ

永六輔 (タレント)

生きていくということとは  
誰かと手をつなぐこと  
つないだ手のぬくもりを  
忘れないでいること  
めぐり逢い愛しいやがて別れの日  
その時に悔やまないように  
今日を明日を生きよう

皆さんはこの一年間の中で、「人」とのどのような「出逢い」を経験されましたか？結婚して伴侶を得た方、お子さんやお孫さんに恵まれた方、一生の友人が見つかった方など。年末年始をそれらの人と一緒に過ごす方もいるでしょう。一方、つらく悲しい別れを経験された方もいるでしょう。その中には、生活環境やお互いの気持ちの変化による別れもあれば、死別による別れも含まれます。年末年始、年賀状の準備や整理をしながら、この一年間での出逢いと別れをしみじみと振り返っていた方も多いいはず。そんな皆さんの心にきつと適うだろうと考えて選んだ名言は、昨年惜しまれつつ亡くなった永六輔さんのもの。デューク・エイセスや上條恒彦さんなどによって



歌われた「生きているということ」という曲の歌詞の一節です。

これを仏さまの教えの視点で解釈すれば、「生きていくということとは誰かの手をつなぐこと」という一節は、仏さまの教えの中の「縁起」の理を表しています。私たちは、自然や人との「相互依存関係」の中で生きています。自分を支えてくれている存在と、しっかりと「つながる」ことが「能動的に生きる」ことにほかなりません。「つないだ手のぬくもりを忘れないでいること」の一節は、そうやって支えてくれた存在のことを忘れず、感謝の気持ちを持ちつづけることの大切さを教えてくれています。「めぐり逢い愛しいやがて別れの日」は、

仏さまの教えの中の「愛別離苦」(愛する者と別れる苦しみ)を示しています。そして、別れの時に「ああしておけばよかった」と後悔しないように、人との出逢い、そして何より自らの人生を前向きに全うすべきことを伝えてくれています。今から十年位前、永六輔さんのお姿を拝見したことがあります。体調が悪いのをおして、聴衆を楽しませていたお姿が瞼の裏に浮かびます。まさにこのことを体現しておられたのですね。

一時一時を丁寧な、毎日を精一杯生き、悔いの少ない好き新年としたものです。  
合掌

## 仏事

### Q&A

第三十三回

Q、家族の忌中に、他家の葬儀に関わってはいけませんか？

A、「忌中に他家の葬儀の弔問や手伝いに行くこと」を「相悔やみ」といいますが、移動や連絡が困難な時代は、それを避ける風習(仏教に由来しないしきたり)がありました。お互いの負担を減らし、それぞれの家の亡き方の供養に専念できるように生まれた温かい配慮に由来するものでしょう。ですので、「行ってはいけない」のではなく「行けなくても許される」と解釈するのが正しいです。もちろん、家族や親しい間柄の方であれば忌中であっても弔問しても差し支えありません。

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師  
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏 (なむしゃかむにぶつ)